

## 2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 18 日作成)

小委員会名	衝撃作用連成問題小委員会	主 査 名：濱本卓司 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：竹内 徹
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>東日本大震災における広範囲にわたる津波被害でもわかるように、流体との接触面積が大きくなるシェル・空間構造において、衝撃作用連成問題の解明は今後の建築物の被害低減のために重要な研究課題である。当小委員会では、衝撃作用を受けた構造物の被害調査を足掛かりに、衝撃作用の荷重特性の解明と構造物(住宅・大空間構造物・シェル構造物・タンク・船舶等)の衝撃応答・損傷の解明を進め、構造物の安全性と機能維持に関する提言を行うことを目的とする。</p> <p>初年度：東北地方太平洋沖地震(2011 年)の被害を始めとして、現在までの様々な災害に対する被害調査を行い、被害と被害を及ぼした荷重の相関関係を調べる。衝撃作用荷重について調査・情報収集を行う。</p> <p>2 年度：前年度に引き続き被害調査を行うとともに、被害と衝撃作用荷重の関係を整理する。衝撃作用荷重について調査・情報収集を行う</p> <p>3 年度：衝撃作用荷重の仕組みおよび構造物の被害・挙動予測を確立するために、実験と数値計算の立場から調査・情報収集を行う。</p> <p>4 年度：一連の調査・情報収集をまとめ、成果資料としてまとめる。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	主査：濱本卓司(東京都市大学) 幹事：遠藤龍司(職業能力開発総合大学校)、近藤典夫(日本大学) 委員：大嶋昌巳(千代田アドバンスソリューションズ)、高野真一郎(大林組)、登坂宣好(東京電機大学)、福住忠裕(元神戸大学)、松井徹哉(名古屋産業科学研究所)、山田貴博(横浜国立大学)、柴田良一(岐阜工業高等専門学校)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	60,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 構造物への津波衝撃作用についての意見交換・情報収集が行った。 2. 家屋や体育館、タンクなどの津波被害についての調査・分析を行った。 3. 津波衝撃を中心に、建築物・地盤等の被害、流れのシミュレーション法、津波災害の水槽実験、津波衝撃力などを整理した成果資料を作成した。 4. 小委員会の当初の目的は、ほぼ達成できた。
委員会活動の問題点・課題	1. 成果資料の作成により設定された問題の整理はできたが、今後はさらに高度な学術的検討を進める必要がある。